

かなえ

創刊号（平成23年12月1日）

医療法人社団 鼎会 八柱三和クリニック

千葉県松戸市日暮1-16-2 日暮ビル2階 047-312-8830

<http://www.yabashirasawa-clinic.com>



院内報「かなえ」創刊にあたって

この度、医療法人社団 鼎会の院内報を発行することになりました。法人名「鼎」を院内報の名前にしました。鼎とは、古代中国で、祭礼に用いられた青銅器のことです。三足両耳を備えていることから、安定した尊い様を表しています。八柱三和クリニックの理念「地域・患者さん・医療スタッフ」の「三者の和」を大切にしたいという思いを込めて名付けられました。

院内報「かなえ」では、クリニックのニュースやお知らせ、地域の方々からの情報などを載せて行きたいと考えています。創刊号では、三人の医師から記事が寄せられました。末永くご愛読いただけるよう紙面づくりをしていきます。どうぞよろしくお願いたします。

私たちは病院復興を目指します

理事長 斉藤 丈夫

新八柱台病院は地域の患者さんから信頼されている病院でしたが、診療とは無関係な経営問題でつまずき、ついには閉院になりました。新八柱台病院の勤務医であった私たちは当時の広谷院長と共に、病院の独立（病院で得た収入は病院のために使うべきだという当たり前のこと）を経営者に求めてきましたが、最後まで受け入れられることはありませんでした。

平成22年2月、かつて新八柱台病院の医療を支えていたスタッフが中心になって八柱三和クリニックを開設しました。今度は自分たちの手でこの地に病院をつくるためです。患者さんは『立派な病院ができましたね』と祝福してくれましたが、『まだ病院ではないのですよ、これから病院を目指します』とお答えしました。八柱三和クリニックは内視鏡、CT スキャン、外来化学療法室など充実した医療設備を備えていますが、入院施設がないことには変わりはありません。入院が必要になれば病院

を探さなければなりません。立派なクリニックができて良かったという気持ちにはなれません。大きなクリニックを作ったのは病院を立ち上げる足場にするためです。毎日の診療の中でこの目標を忘れたことはありません。

さて、病院をつくるためには県の行政機関による病床の認可が必要です。病床の数は各医療圏で定数がありますが、通常は定数を越える応募があります。私たちは22年3月にも病床の申請を行いました。願いは叶いませんでした。今回は2度目ですが、やはり高い競争率です。病床の配分は大病院の増床に充てられる傾向があります。高度な医療設備を備えている大病院と地域の開業医の連携が、行政が描いている医療モデルです。そこには100床に満たない病院の出る幕はありません。私たちの病院建設に向けた士気は高く、その決意は揺るぎないものですが、はたして病床の認可が得られるのでしょうか。

最近、こんなことがありました。関節リウマチの患者さんが肺炎になり入院が必要になりました。総合病院の内科に依頼しましたが、受

付では単なる内科という診療科はないと言われました。それなら肺炎なので呼吸器内科の医師にとということになり話を聞いてもらいましたが、結局リウマチ科の常勤医がいないという理由で断られてしまいました。この時も改めて自分たちの病院をつくらなければならないと強く感じました。高齢になると複数の疾患を持つことが多くなります。大半は特別な専門医療を必要としないありふれた疾患です。専門に特化した複数の医師よりも、患者さん全体を見て責任を持てる一人の主治医の存在が大切な場合が少なくありません。

私たちは八柱地区に中規模病院を復興する意義をずっと訴えてきました。何度も県の担当部署に足を運ぶうちに、病院復興が地域の患者さんの願いでもあることを何らかの形で示すことが必要だと考えるようになりました。そして『患者さんから署名を集めよう』という思いに至りました。

最初は患者さんに署名をお願いすることには少しためらいがありましたが、今では署名を始めて本当に良かったと思っています。たくさんの署名をいただきました。署名を通じて私たちが地域の患者さんにつながっていることを実感することができました。それに今まで知らなかった患者さんの人柄に触れることができた気がします。『そんなにお礼を言わなくてもいいですよ、この位は何でもないんですから、先生は知らないでしょうけど私は顔が広いですよ』と笑顔の患者さんがいます。でも、本当は苦勞して集めてくださったのだと思います。

先日、患者さんの気持ちが詰まったずっしりと重い署名を県に届けてきました。この時に初めて、病院を復興する使命が私たちに与えられるはずだという気持ちになれたのです。病床の認可が得られると信じています。同時に、私たちには重い責任があることを痛感し、病院復興への決意を新たにしています。

応援歌

外科・乳腺外科 渡辺 修

この10月より私たちの病院建設(病床認可)に賛同いただく署名活動を始めて1カ月が過ぎまし

た。予想を上回るペースで署名が集まり、1万4千人を超えました(11月22日現在)。中にはひとりで何十人、何百人の署名を集めてくれたり、不自由な体を押して近所を回ってくれたり、街頭に立って署名活動したいという人がいたり、職場などで回覧して集めてくれたりと多大な協力をいただき感謝の言葉もありません。ひとり、ふたりの署名でも勿論気持ちがこもっていて、いただいた署名は私たちの宝です。新八柱台病院の時に手術した患者さんは、入院した時のことをあらためて思いだして、「あんな病院をまた作ってくれたらいいな」と思ってくれたかななどと勝手に想像しています。

新八柱台病院を無念の退職後、松戸朋友クリニックと今の八柱三和クリニックでは手術を新松戸中央総合病院で行っているため、患者さんにはご不便とご迷惑をかけてしまっています。その患者さん達からも多くの署名をいただきました。「先生に自分の病院で手術してもらいたい」、「もう他の病院にいかなくて済むんですね」、「早く自分の病院で手術できるといいですね」、「元気にしてもらった感謝の気持ちで署名集めました」、「先生にできるだけの協力がしたい」、「先生の実力が発揮できるような病院ができるように広報係をやります」など有り難い言葉を多くかけてもらい、まさに感涙の極みです。今まで自分がやってきたこと、走り続けている道は間違っていないと確信しましたし、結果を出して皆さんの期待に応えなければとあらためて身が引き締まる思いです。

最近有り難い事に乳腺の患者さんがとても多くなって外来も容量オーバー気味、手術も毎週3~4人ずつやっているのですが、手術待ちが2カ月の状態となってしまっています。嬉しい悲鳴ではありますが、まさに分身の術でも使わないと回らないような事態で、少々愚痴っぽく、押し潰され気味でした。そんな中での署名効果で患者さん達に大きな元気をもらったわけです。

わたくし事です、浜田省吾の大ファンで、先日もさいたまスーパーアリーナでのコンサートに行ってきました。いい曲が沢山あるのですが、「家路」という曲の何か所かのフレーズが自分の境遇とダブって自分への応援歌のように感じてここ数年とても勇気づけられています。

「♪~この人生が何処へ俺を導くのか尋ねてみる~♪」、

「手に入れた形あるもの、やがて失う... それを夢と名付け、迷いの中さまよう~♪」、

「どんなに遠くてもたどり着いてみせる~♪」

2005年 ミスチルの桜井クンとコラボするコンサートシーンがインターネットでもアップされているのですが、これがまた感動的です。少々感傷気

味で脱線してしまいましたが、皆さんからの署名をエネルギーに変えてたどり着いてみせます。

私が女子医大から新八柱台病院に赴任したのが平成16年4月ですから、この地に根を生やして7年半です。大学病院から移って感じたのは、患者さんとの距離がグッと近くなったことです。大学病院では多くの患者さんは「大学病院で診てもらっている」という意識が強いのではないかと思います。新八柱台病院では「私(渡辺 修)に診てもらっている」ということになって、私にとっては、大学病院に通ってきている患者さんではなく、私の患者さんという意識になるからだろうと思います。同じ患者さんを診るのに区別があっただけではありませんが、微妙な感情の違いがありました。

新八柱台病院は100床程度の目立たない地味な地域の病院でしたが、長年にわたって内科医が地域の人々の信頼を築きあげてきてこの地域にはなくてはならない病院でした。そして当時、がんや他の病気で手術が必要な患者さんのほとんどが他の病院にいかずに新八柱台病院で私の手術を受けてくれました。その新八柱台病院は閉院となってしまいましたが、今度はそれを上回るいい病院を作って外科医として一人でも多くの患者さんを治したいと強く思っています。

<創刊号によせて>

内科 渡辺 聡枝

<法人化:感謝>

八柱三和クリニックは開設後1年半を超え、10月からは法人となりました。この間、クリニックに来てくださる患者さんをはじめ、関わる多くの方に支えられ、地域の中で一定の役割を担わせていただき、感謝しています。

<署名:ありがとうございます>

県に対して病床認可を求める署名にご協力いただき、ありがとうございます。目標1万人ということで始めた署名活動ですが、あっという間に目標を超え、今では1万6千人を超えてまだ増えそうです。みなさんにいろいろな形でご協力いただいています。

まだ集められるからと二回、三回と署名用紙を受け取ってくださる方、足が悪いのに一軒一軒ご近所を訪ね歩いて集めてくださった方、面倒なことを頼んでごめんなさいと言ったら、“私たちが病院を欲しいのですもの”と仰ってくださった方、一人分大事に持ってきてくださった方、次回の来院が先なので返信用封筒をお渡ししようとしたら、届

けにきます、と仰ってくださった方、“コピーしますから一枚でいいです”と仰ってくださる方、職場でたくさん集めてくださった方。それぞれ義理でなく、できることがあれば協力したい、という気持ちが伝わってきて、どの署名にも感謝、感激しています。署名ひとつひとつにたいへん力づけられると同時に、予想以上に多くの方がこの地域に病院が必要だと強く切実に感じておられる、ということを感じました。これはいよいよもうあとにはひけない、と緊張もしています。

<近隣の病床・医師不足:専門医はいるけれど>

実際、入院が必要になったとき、困ったことがときどき起こります。

例えば、あちこちの病院で断られて入院先が決まるまでに3時間近くかかった方、大病院では、専門性が高くなりすぎているため、入院中に(入院中の主治医の専門外の)持病の方が悪化した方、急を要する状態だからと連絡しておいても長時間待たされて別の病院を探した方もおられます。

近隣の大病院が忙しすぎることや、入院ベッドも空床が少ないこと、複数の疾患を持つ方の治療は専門分野にわかれた大病院ではかえって難しい場合があることなどの問題をつくづく感じます。この地域では、循環器疾患など、専門医には恵まれています。一人の患者さんをトータルで診る医師、病院は不足しています。

<めざす病院像>

私たちがめざしているのは、一般的な(高度な医療機器や専門性を必要としない)病気の患者さんを総合的に診る病院です。地域では少しずつ高齢化が進んでいますが、ご高齢の方は複数の内科・外科疾患を持つ事が多いものです。それぞれ喘息は呼吸器科、不整脈は循環器科、糖尿病は糖尿病内科、胃潰瘍は消化器内科、リウマチはリウマチ-アレルギー科、バセドウ病は内分泌内科、等と別々の医師にかかる方もあるとは思いますが、ご高齢の方があちこち受診するのは現実的ではありませんし、実際には特殊な専門性を必要とすることはそれほど多くありません。

この地域の医療に欠けている部分を補えるよう、複数の病気を持っても安心して入院できるような病院が作ればきっとみなさんに喜んでいただけるだろうな、と思っています。

<待ち時間短縮へのご協力に感謝>

おかげさまでクリニックには連日たくさんの患者さんに来ていただいています。待ち時間が長時間になることを避けるために予約制があり、新八柱

台病院よりは平均待ち時間が短くなっています。それでも予約のない急病の患者さんをお断りしたり、すべての予約の患者さんのあとにしたり、というわけにはいかず、また、お一人あたりの診療にかかる時間がさまざまであることから、どうにもできずに待ち時間が長くなってしまふことがあります。待ち時間が長くなってくると私の方も少し焦ってきます。(長年の間、最大の悩みが待ち時間です。)そんなときに大丈夫ですよ、と言ってくださる方、次回の受診希望日や欲しい薬のメモや高血圧／

糖尿病手帳などをさっと出せるよう準備して来てくださる方も多く、それぞれのご配慮にとっても感謝しています。私の方が癒されたりします。ありがとうございます。

<病院再興に向けて>

これからも超えなければいけない困難がきっといくつかあると思いますが、病院再興に向けて頑張りたいと思います。今後どうぞよろしくお願ひします。

編集後記

街が秋色に染まった・・・と思っていたら、あつと言う間に今年も残りわずかになりました。やり残したことが無いよう、一日一日を大切に過ごしていきたいものです。病床許可を求める署名を開始して2カ月で、16000名以上の方に署名していただきました。ひとりひとりの方にお礼を申し上げたい気持ちですが、私たちの医療に対する理念や想いを形にしていくことが、皆さんに応えることだと思っています。病床配分は今年度中に決まる見込みです。皆さんにいただいた署名を県に届けていますので、きっとよい結果が出ると思っています。

八柱三和クリニック診療医師担当表

		月	火	水	木	金	土
乳腺外科	午前	渡辺 修	渡辺 修	(手術)	渡辺 修	渡辺 修	渡辺 修
	午後	渡辺 修	渡辺 修		(手術)	渡辺 修	
整形外科	午前	池谷昌道	幸島雄太		糸魚川善昭		
	午後	小酒井治 (2, 4) 池谷昌道 (1, 3, 5)	幸島雄太		糸魚川善昭		
内科 1	午前	斉藤丈夫	斉藤丈夫	斉藤丈夫	斉藤丈夫	斉藤丈夫	斉藤丈夫
	午後	斉藤丈夫		斉藤丈夫	(在宅)	斉藤丈夫	
内科 2	午前		渡辺聡枝	渡辺聡枝	渡辺聡枝	渡辺聡枝	山田祐介
	午後		渡辺聡枝	渡辺聡枝	渡辺聡枝	(高林克日己)	
内科 3	午前	鈴木明子		鈴木隆弘	鈴木明子		高林克日己
	午後	鈴木明子	仲野総一郎		鈴木明子	鈴木明子	
胃カメラ	午前	渡辺英二郎		鈴木明子		鈴木明子	
大腸カメラ	午後	渡辺英二郎		鈴木明子		渡辺聡枝	

《お知らせ》

24年1月14日(土)15:00～:第9回健康サービスデー

『認知症の理解とケア』 講師:和光病院院長 斎藤 正彦先生